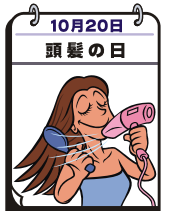


カミノトピックス



人のために、そして自分のために

今回ご紹介させていただくのは、千歳市向陽台にある『北海道千歳リハビリテーション学院』様です。平成7年4月に開校され、数多くの優秀な療法士を輩出されており、優れた講師陣のもと、全国平均を上回る国家試験合格者を誇っています。最近では医療関係の専門分野に興味のある学生が多く、オープンキャンパスも人気です。

学院には「理学療法学科」と「作業療法学科」とがあり、それぞれ理学療法士、作業療法士を養成しています。

理学療法士は、身体に障害のある人に対し、身体的基本的動作の訓練を通して、最も適切な治療、指導を行い、障害の改善を図り、基本的な運動能力の回復を目指します。また、身体を動かすことで生じる痛みの原因を把握し、医師と共に痛みを緩和する方法を考えます。

作業療法士は、食事や排泄、着替えなど日常生活を送るうえで欠かせない生活訓練を通して、障害のある人たちが本来持っている機能の向上を図るほか、手工芸などの趣味的活動を通して、順序よく作業を進めるなど生活に必要な機能回復を促し、家庭や職場への復帰を目指します。また、精神障害のリハビリも作業療法の専門領域であり、社会適応力を育て、心身の自立もサポートしています。

また、学院の特色をお聞きしたところ、①大学院卒の講師が多く、教育者としても研究者としても第一線で活躍し、最新の知識や技術を学生に伝えている、②3年制のため4年制の学校と比べ1年早く臨床の現場に出て、プロのキャリアをスタートさせることができるうえ、資格取得までの時間と費用も抑えられる、③模擬試験や集中ゼミなど国家試験対策が充実しており、全国平均を上回る国家試験合格者を誇っている、④卒業後も勉強会やインターネットを利用しての症例検討会などを実施し、療法士としてのキャリア形成を支援している、とのことでした。

進む高齢化社会や生活習慣病の増加などで、リハビリテーションの現場で療法士が求められる機会が増えているそうです。

私も将来リハビリが必要となった時、担当してくれる療法士の方が、こちらの学院の卒業生かもしれませんね。

談：E.S・岡田



実践教室も充実しています。
(左上より、医学の基礎を学ぶ基礎医学実習室、心からだのダイナミズムまでを実践的に学ぶレクリエーション室、理学療法を中心に学ぶ機能訓練室。)



平成22年度からは、千歳駅前から学院までの通学バスの費用を学院が負担する制度が始まります。

卒業生をいつまでも支えられる一生の学舎を目指し、勉強会や症例検討会が実施されています。



地域とコミュニケーション

9月6日(日)に『クラウンチャリティフェスタ2009』が、ANAクラウンプラザホテル様の駐車場で開催されました。第1回目の開催となるこのイベントは、社会貢献の一環とし“UPDOWNPROJECT”チームを結成し、地域を支援するために企画されました。市民の皆さんと溶け込んでいきたいというホテルスタッフと市民とのレクリエーションの場でもあります。また、収益の一部を千歳市社会福祉協議会に寄付されています。

当日は朝から曇り空と小雨模様でしたが、少しずつ天候も回復。800名という予想以上の集客でスタッフの方々は大忙し。というのも、メニューはホテルのシェフによって作られているのにも関わらず廉価なメニューばかり。子ども達の大好きなフワフワバルーンも大人気！！子連れには嬉しいイベントです。当日私も期待していた地元野菜直売はあっという間に完売。わたあめ・ヨーヨー・スーパーボールなどもあり、何か懐かしさを感じられました。シェフによる氷細工の実演もありました。結婚式や祝賀会などで目にする事はあっても、その過程を目にする事はほとんどないので驚きと感動でした。また「大声コンテスト」というおもしろい企画もありました。大人の部、子どもの部がありましたなかなか大人の参加が少なかったようです。皆さんも普段家庭の中で出している大声なら優勝も・・・。今回、あちこちで色々な催しありましたので参加しそこねた方々もいるかと思いますが、今までホテルというと、どこか距離感を抱いていましたが、取材・イベントの参加を通じてスタッフの方々がとても気さくで、固定観念にとらわれず、機会があれば色々なイベントに参加し、勉強しなければと感じました。

お忙しい中、快くお話を聞かせて頂いた関根支配人。本当にありがとうございました。またホテルのスタッフの方々本当に御疲れ様でした。またステキなイベントを心待ちにしています。

談：JR・千葉



関根宴会販売支配人(写真右)とホテルスタッフの皆さん



大人気のバルーン。中から子ども達の笑い声がいっぱいでした。



まさに芸術です。

カミノトピックス創刊 50 号を振り返って・・・

カミノトピックス（略して「カミトピ」と呼んでいます。）は、平成17年7月に第1号を創刊して以来、先月号で50号を迎えることができました。これまでの取材に快くお受けしていただきましたお客様やお読みいただきましたお客様には、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

当初は、内容的にも少し寂しいものがありました。その後、弊社とお取引のあるお客様のご承諾をいただいた情報載せることで、紙面の多くを占めるようになって来ました。そこで、50号をひとつの節目として如何に長く継続させるかに、作り手側の苦労話やこれからの取り組みについてスタッフが反省を込めて話し合いをしました。以下は、話し合いの概要を載せさせていただきます。

★ カミトピ発行の趣旨は・・・。

今の社内体制を作るにあたり、全員参加で1年をかけて勉強した研修会「かしましプロジェクト」が立ち上がり、その中で「お客様への情報発信」をどのような形で提供するかがテーマとなり、そのひとつの方法として「カミノトピックス」を創刊することになりました。表題は社内公募で決めました。

内容も商品の紹介だけではなく、お取引をいただいているお客様について、企業名だけではその会社がどのようなことをしているのか（何を造っているのか）がわからない方も多くいるのではと感じ、お客様をご紹介することで、WIN-WINで地域活性になるのではないかと考えから、お客様取材が始まりました。

始めの月号は、社員の任意による原稿提出を期待していましたが、これではなかなか記事が集まらない。そこで、月ごとに各PCチームをお願いしてみましたが、取材する人が偏ってしまい、これまた思うように原稿が集まらない結果になってしまい、最終的には現在のやり方の全員で取り組んでいこうとのことで、個人の当番制になっています。

★ ニュースソースについて・・・。

普段からお取引をさせていただいているお客様との会話の中から記事にさせていただくことが多くあります。

地域のイベントなどは、スタッフ自身が参加してみて、直接その場の雰囲気に触れてみて感じた事柄を基に、何を感じたかを感想を込めて書くことに努めています。

新商品の紹介や最新の情報を提供することも大切な役割のひとつです。



森園 青木社長 田中 藤井 国府田 小泉 高田

★ 読んでいただいた方の感想はどのように捉えていますか。

毎号楽しみにしていただいているお客様がいて、前号の内容についての講評をいただくことが多くあります。

カミトピを身近に感じていただいているお客様がいることは、大変励みになりますね。

内容がマンネリ化してきているとのご指摘をいただいていることも事実です。

内容が硬くなりがちなので、時にはグルメ的な記事でもOKですよとのご意見もありました。

★ 作り手側の感想、抱負について・・・。

時には、同業種の記事の内容が続くこともありましたが、今後は幅広い分野を題材として紙面の充実を図りたいと考えています。

文面が新聞記事的な表現になってしまうこともあり、また、書くことに不慣れな取材者が、内容を難しく考えすぎて自分の想いを伝えきれていないなど、文字にすることの難しさを実感しています。

不慣れは不慣れとして、取材をしてお客様の情報を伝えようとする姿勢は評価していただければありがたいと思っています。

今の時代に紙ベース？と思われる方もいらっしゃると思いますが、紙の上に文字にすることで伝わる・感じることはまだまだあるのではないかと考えています。

創刊から第50号までの間にお客様から様々なご意見をいただいて参りました。これを機会にスタッフ一同は今後の発行継続に向けて努力を続ける決意を強くしています。これからも、我社のスタッフが伺った際には忌憚のないご意見をお待ちしています。あわせてご協力をいただければ幸いです。

株式会社カミノ 企画広報室スタッフ一同



2009年 9月30日 VOL. 51

発行元：(株)カミノ

TEL：0123-23-4255 / FAX：0123-24-1381

e-mail：kamino@rose.ocn.ne.jp

10月17日(土)に「環境フェア in CHITOSE」が、千歳市民文化センターで開催されます。当社も参加させていただき、環境に配慮した商品や、当社の取り組みをパネルで展示します。「環境」についてみんなで再確認できる場になると思っていますので、是非ご来場ください。